

診療所医師の診療時間および時間外活動に 関する調査結果(2007年7月実施)

社会保障審議会医療保険部会

2007年11月26日
社団法人 日本医師会

調査の目的と方法

目的

診療所医師(管理者)の勤務負担の実態と地域の中で担っているさまざまな活動を把握することを目的に、診療時間および診療時間外の活動について、調査を行った。

対象

対象地域	対象者	調査期間	配布数	有効回答数	有効回答率
北海道札幌市 東京都板橋区 山口県 鹿児島県	一人医師医療法人立診療所*1)および個人立診療所の開設者または管理者	一週間 7月25日(水) ~31日(火)	3,201	1,461	45.6%

*1) 医療法人のうち、医師が常時一人または二人勤務する診療所

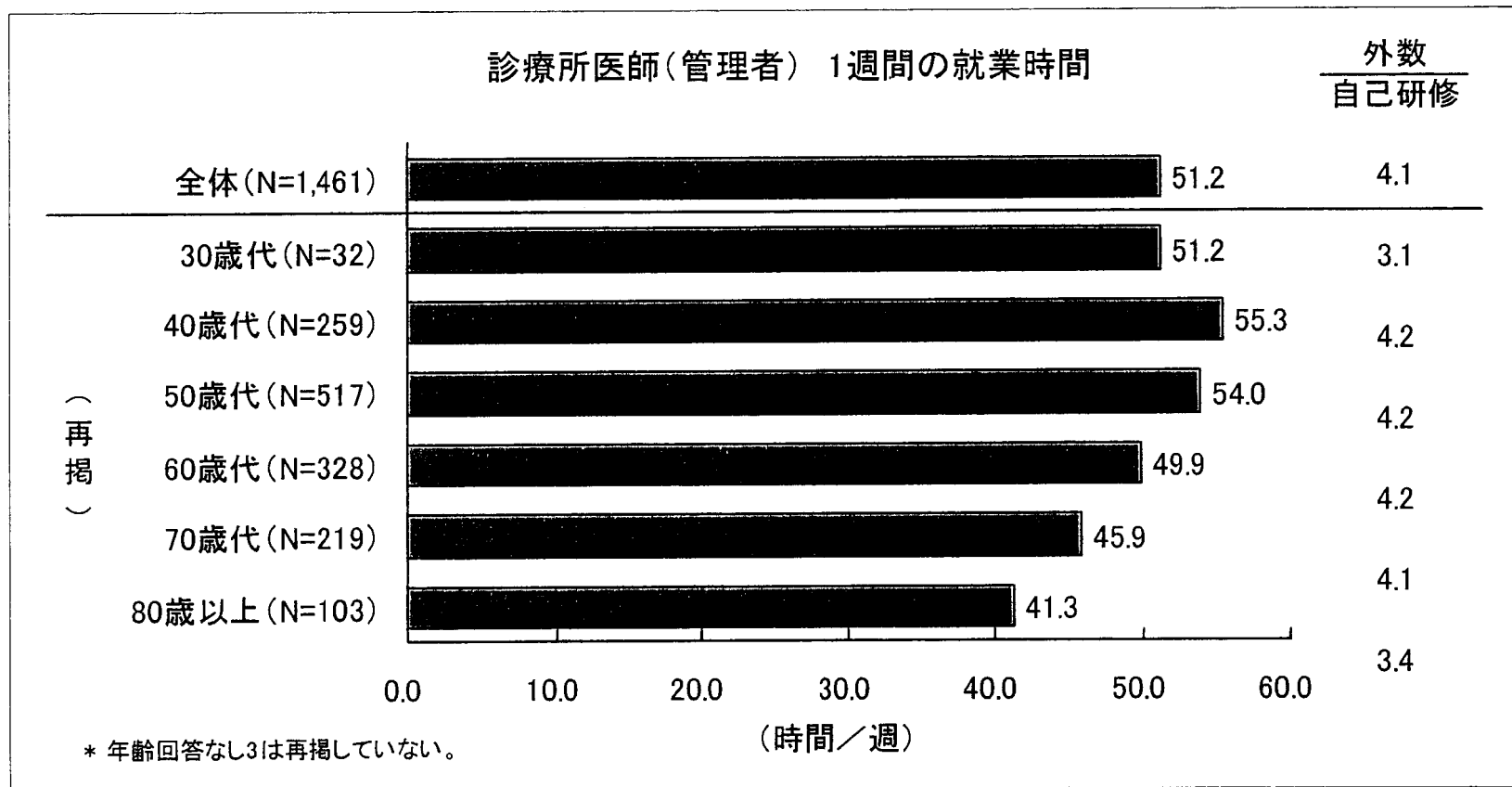
※以下、調査客体を「診療所医師(管理者)」という。

用語の説明

用語		主な活動内容ほか
診療時間	診療業務	外来・入院診療業務(診療前準備、後片付けも含む)、往診、訪問診療、他施設での診療業務(夜間・休日診療を除く)
診療時間外	学校医・産業医等	児童生徒の定期健診、職場健診・健康相談、乳幼児健診、予防接種、がん・成人病検診、死体検案 など
	地域医療活動 救急対応	休日診療業務、平日夜間診療業務、小児初期救急平日夜間診療業務、電話相談業務 など
	地域医療活動 介護保険関係	介護保険認定審査会、ケアカンファレンス、主治医意見書の作成 など
	地域医療活動 行政・医師会等	防災会議、地域医療計画会議、障害者認定審査会、など 医師会での各種会議・業務 など
	地域医療活動 地域行事	地域行事(マラソン大会など)救護班として出務、地域行事(市民公開講座)などへの講師 など
	診療所管理業務	診療所の経理、職員・看護師等への教育・指導、レセプト・カルテの作成、書類等の作成 など
	自己研修	医学雑誌、医学専門書に目をとおす、医学文献の検索、医師会・学会・研究会の講演会 など
就業時間		診療時間＋診療時間外－自己研修

就業時間一年齢階級別一

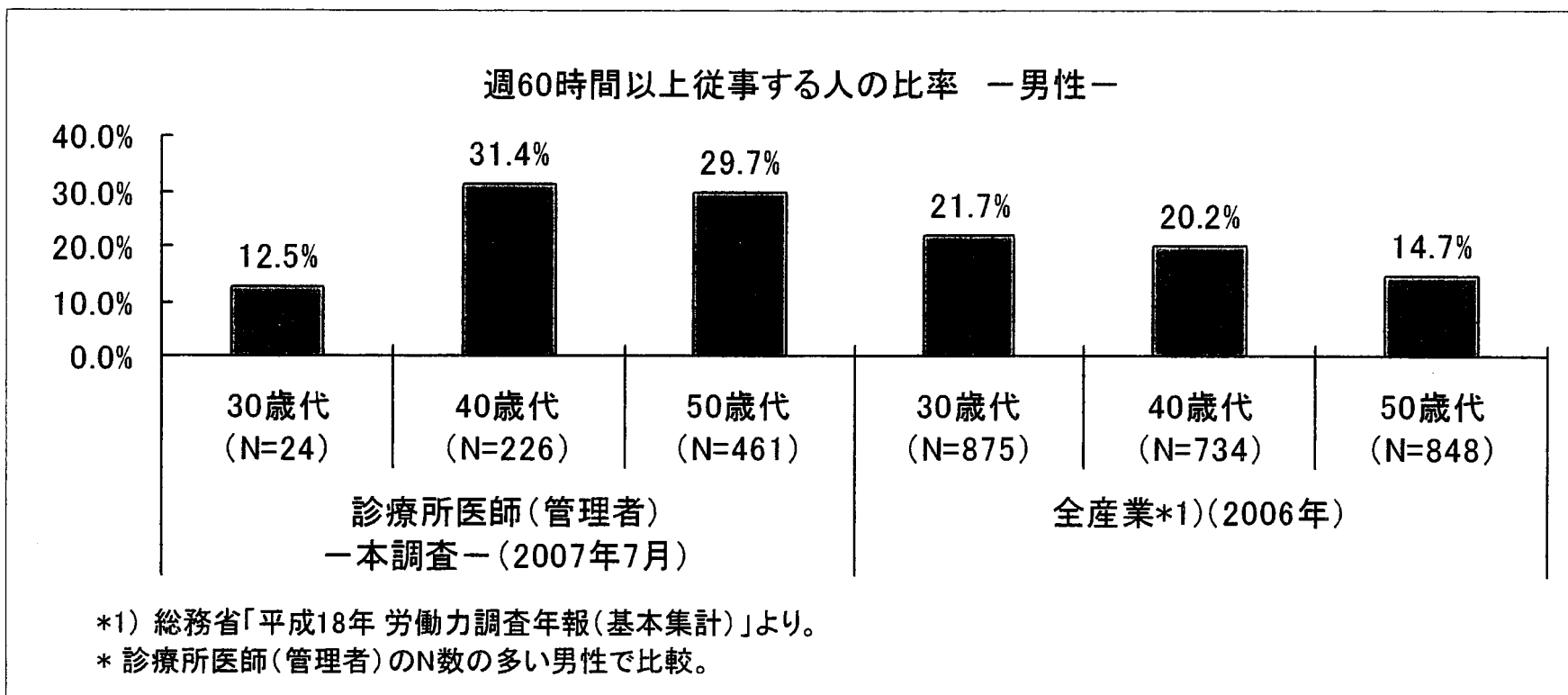
1週間の就業時間は、全体で平均51.2時間であった。就業時間がもっとも長かったのは40歳代の55.3時間であったほか、30歳代、50歳代では週50時間を超えていた。



就業時間: 診療時間 + 地域医療活動 (学校医・産業医等、救急対応、介護保険関係、行政・医師会等、地域行事) + 診療所管理業務 (自己研修は除く)

就業時間－診療所医師(管理者)と全産業との比較－

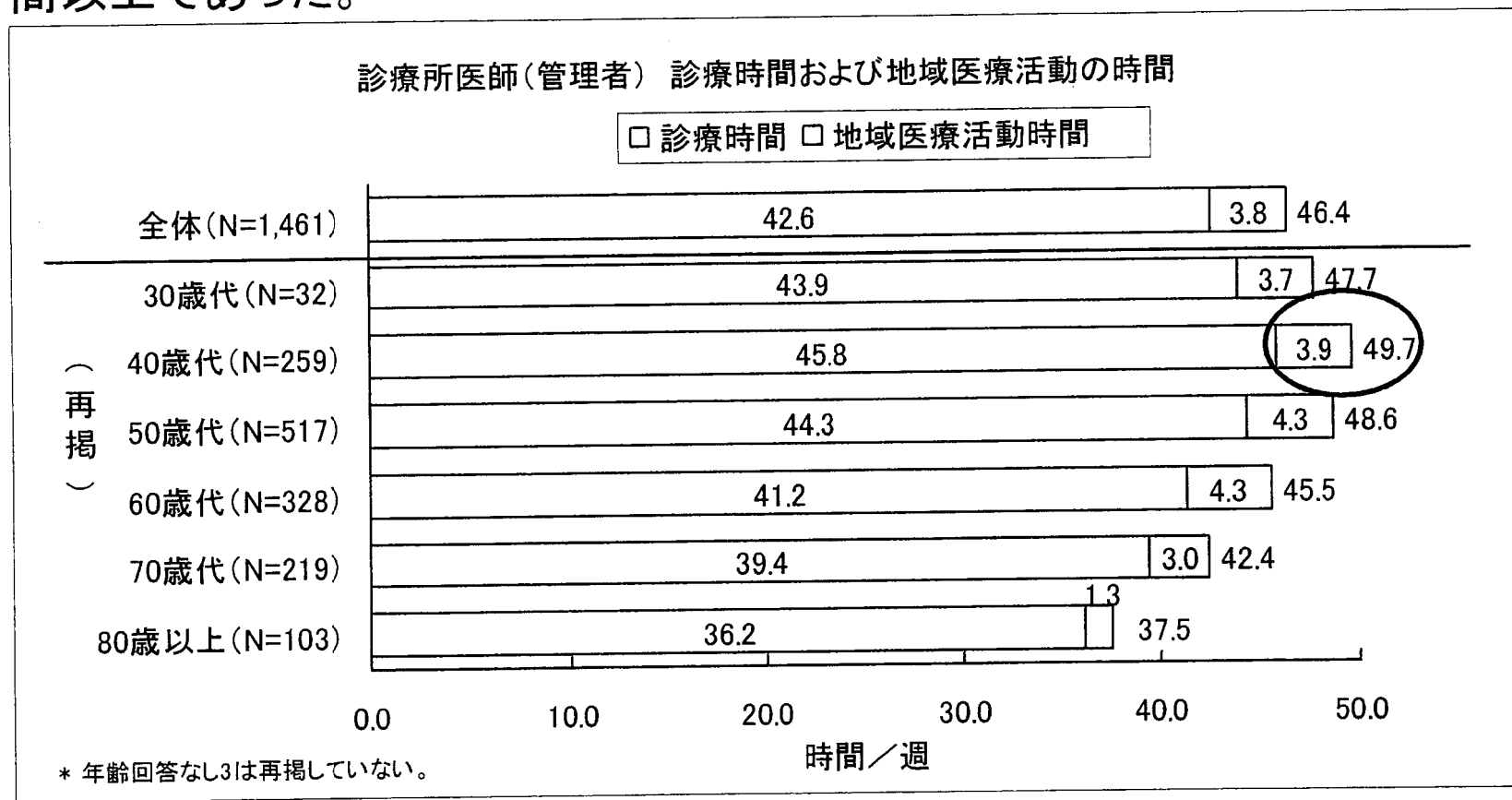
週60時間以上従事する人の比率を見てみると、診療所医師(管理者)は40歳代で31.4%、50歳代で29.7%と3割前後である。全産業平均では、30歳代が21.7%と高いものの、40歳代以上になると、診療所医師(管理者)に比べて10ポイント以上比率が低い。



就業時間: (診療所医師)診療時間+地域医療活動(学校医・産業医等、救急対応、介護保険関係、行政・医師会等、地域行事)+診療所管理業務
 自己研修は除く
 (全産業)就業時間(実際に仕事に従事した時間)

診療時間および地域医療活動一年齢階級別一

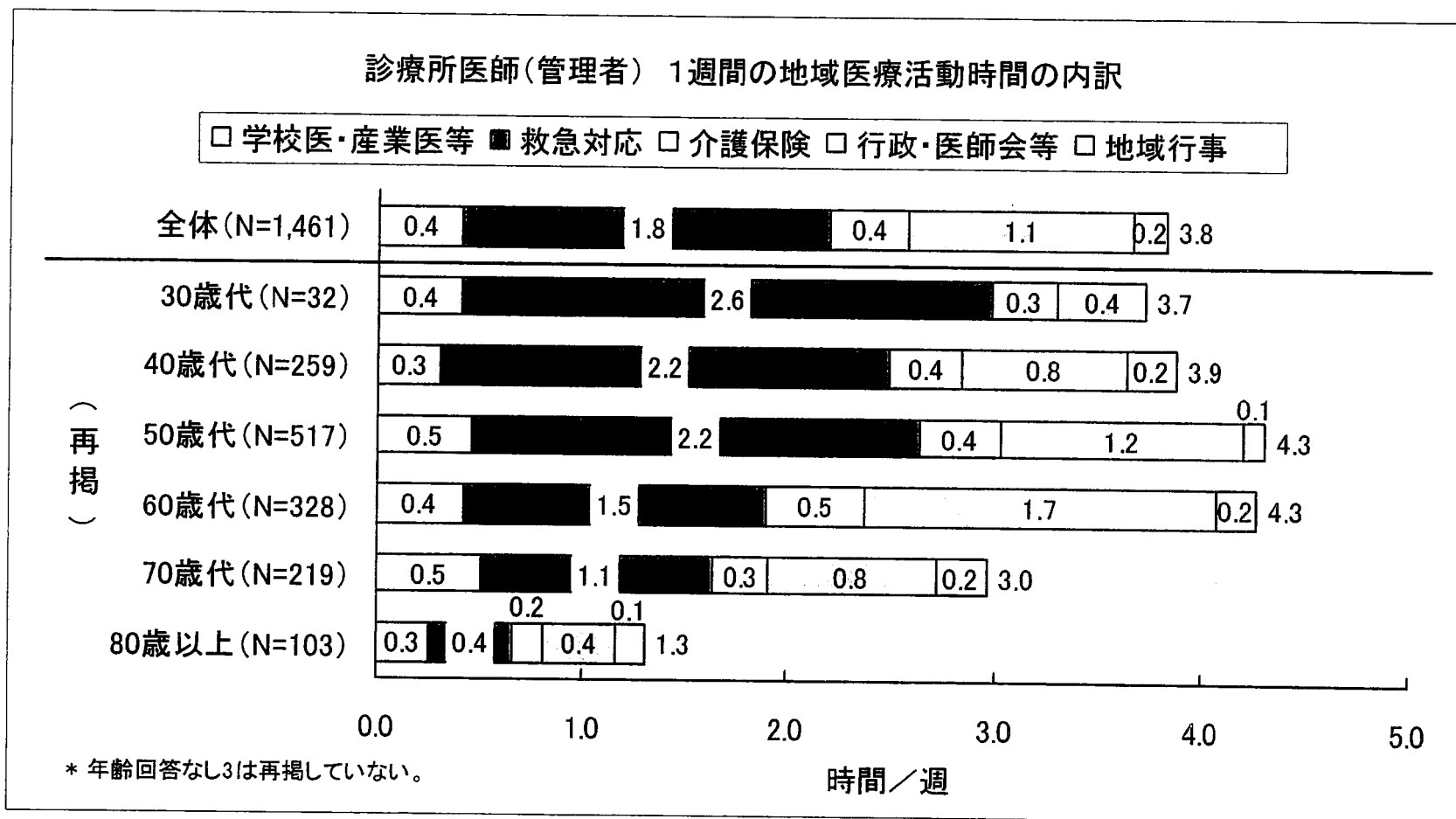
診療所医師(管理者)は、1週間に平均して診療42.6時間、地域医療活動3.8時間、計46.4時間従事していた。40歳代では、合計時間が50時間近くであった。60歳代では、自らの診療時間は短くなるが、地域医療活動は週4時間以上であった。



地域医療活動: 学校医・産業医等、救急対応、介護保険関係、行政・医師会等、地域行事

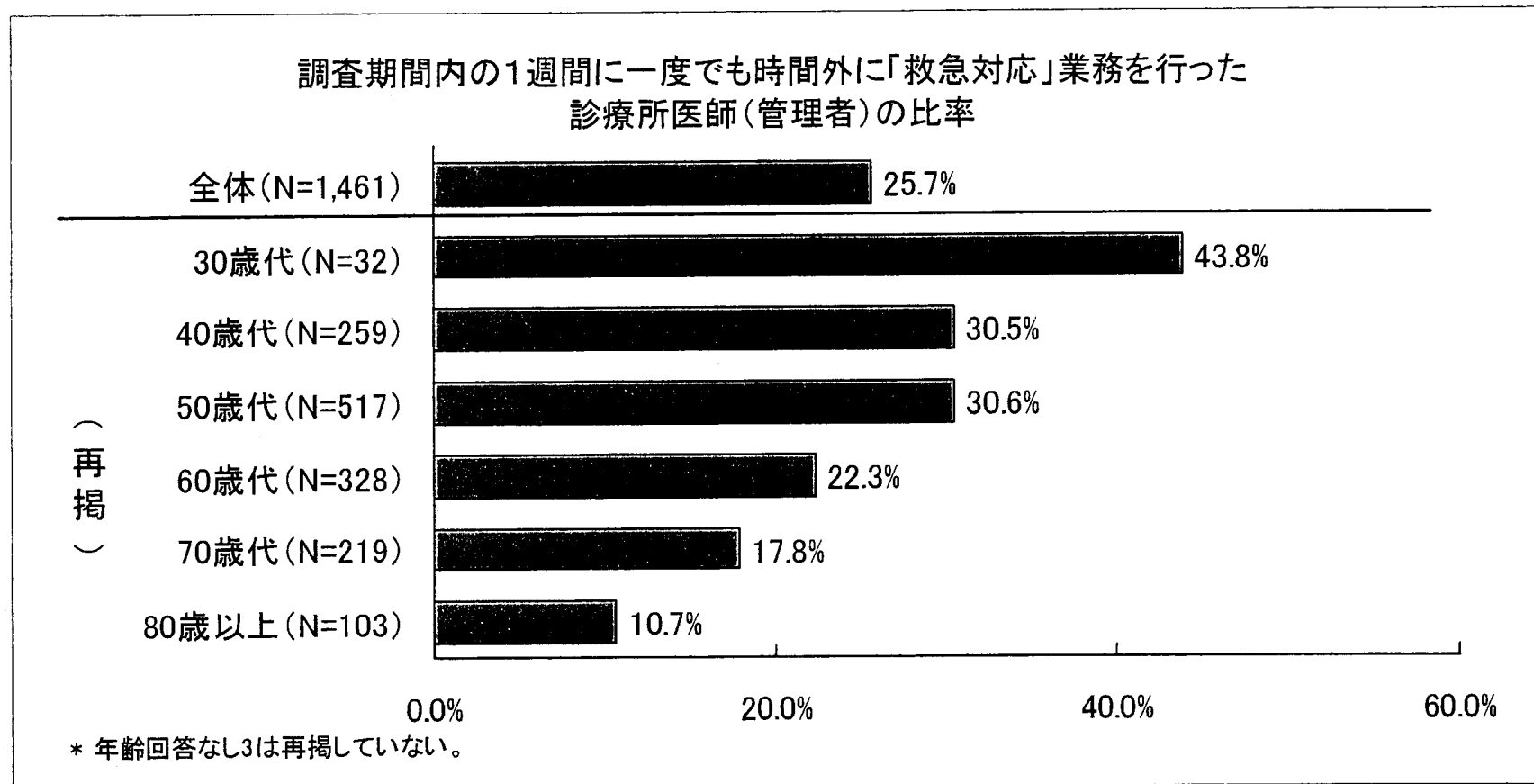
地域医療活動の内訳—年齢階級別—

地域医療活動のみに着目すると、40歳代では週3.9時間、50歳代および60歳代では週4.3時間であった。救急対応は30歳代から50歳代で週2時間以上であった。



救急対応一年齢階級別一

30歳代の診療所医師(管理者)のうち43.8%は、調査期間内の1週間において一度以上、診療時間外に救急対応業務を行っていた。40歳代、50歳代も3割以上、60歳代でも2割以上が行っていた。

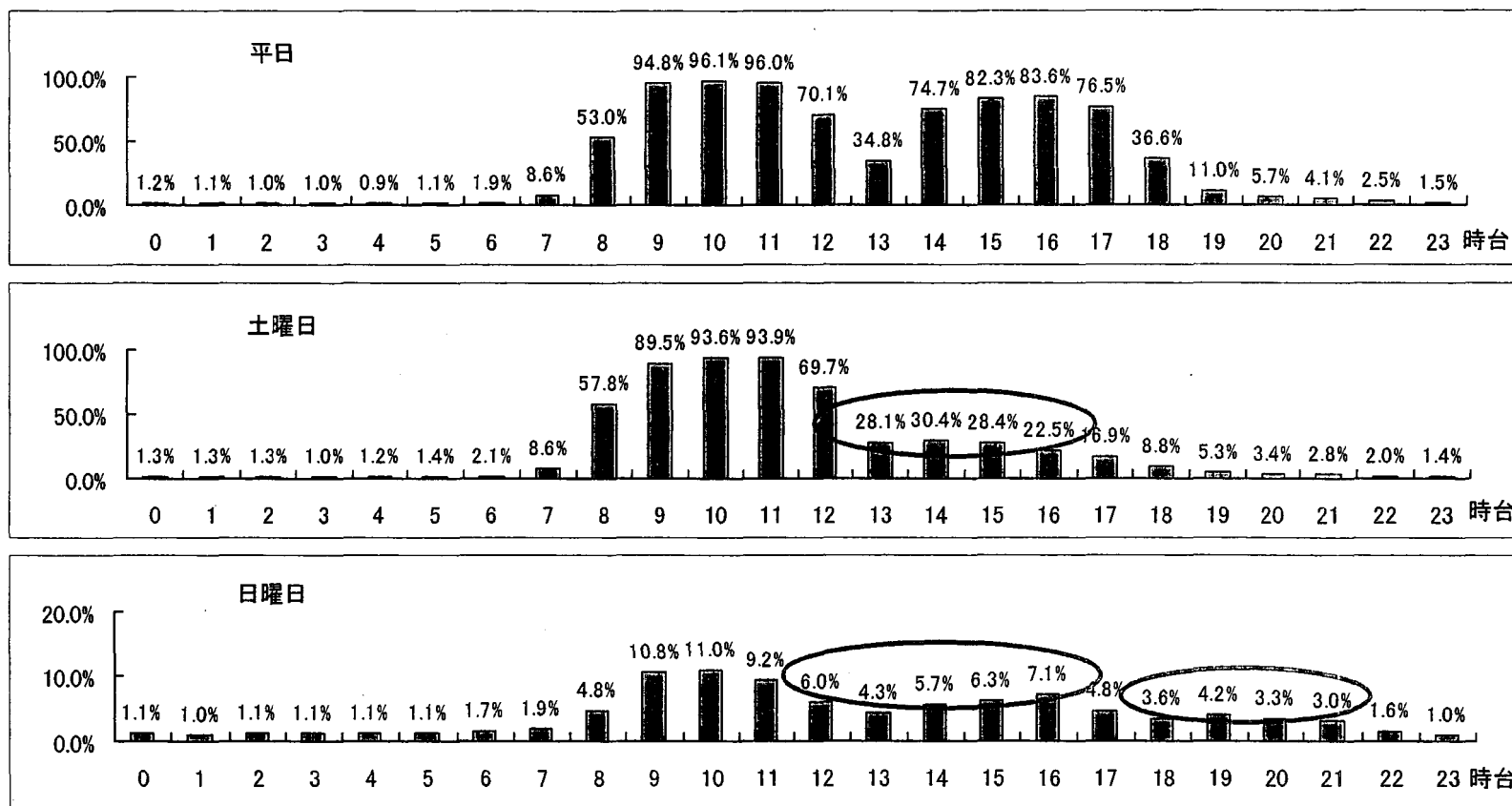


救急対応: 休日診療業務、平日夜間診療業務、小児初期救急平日夜間診療業務、電話相談業務など

平日、土曜日、日曜日の診療

土曜日午後は、おおむね2割以上の診療所医師(管理者)が診療を行っていた。
日曜日午後は4~7%、日曜夜間は3%前後であった。

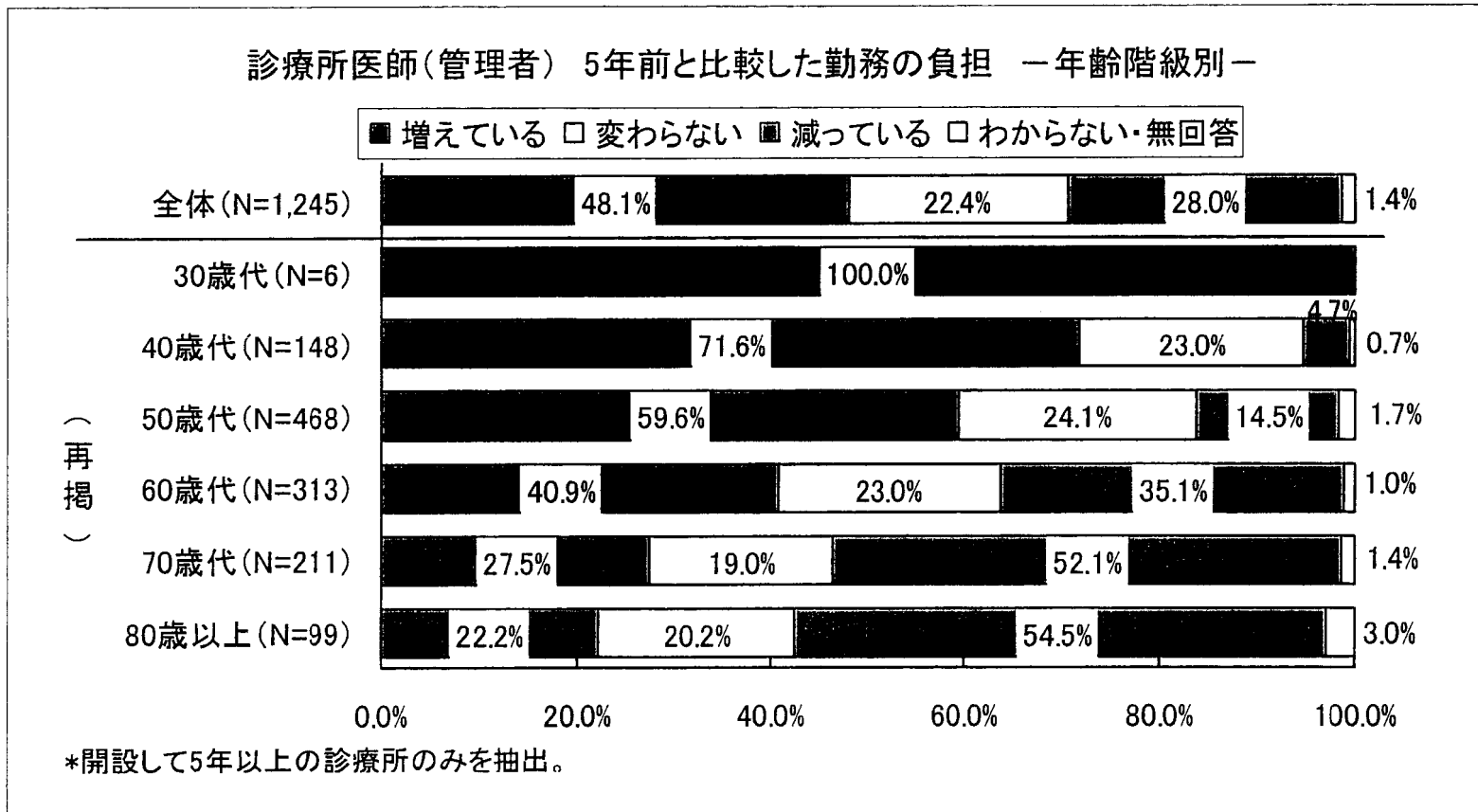
診療所医師(管理者) 診療(救急対応を含む)を行っている医師の比率 (N=1,060)



救急対応: 休日診療業務、平日夜間診療業務、小児初期救急平日夜間診療業務、電話相談業務など

業務の負担一年齢階級別

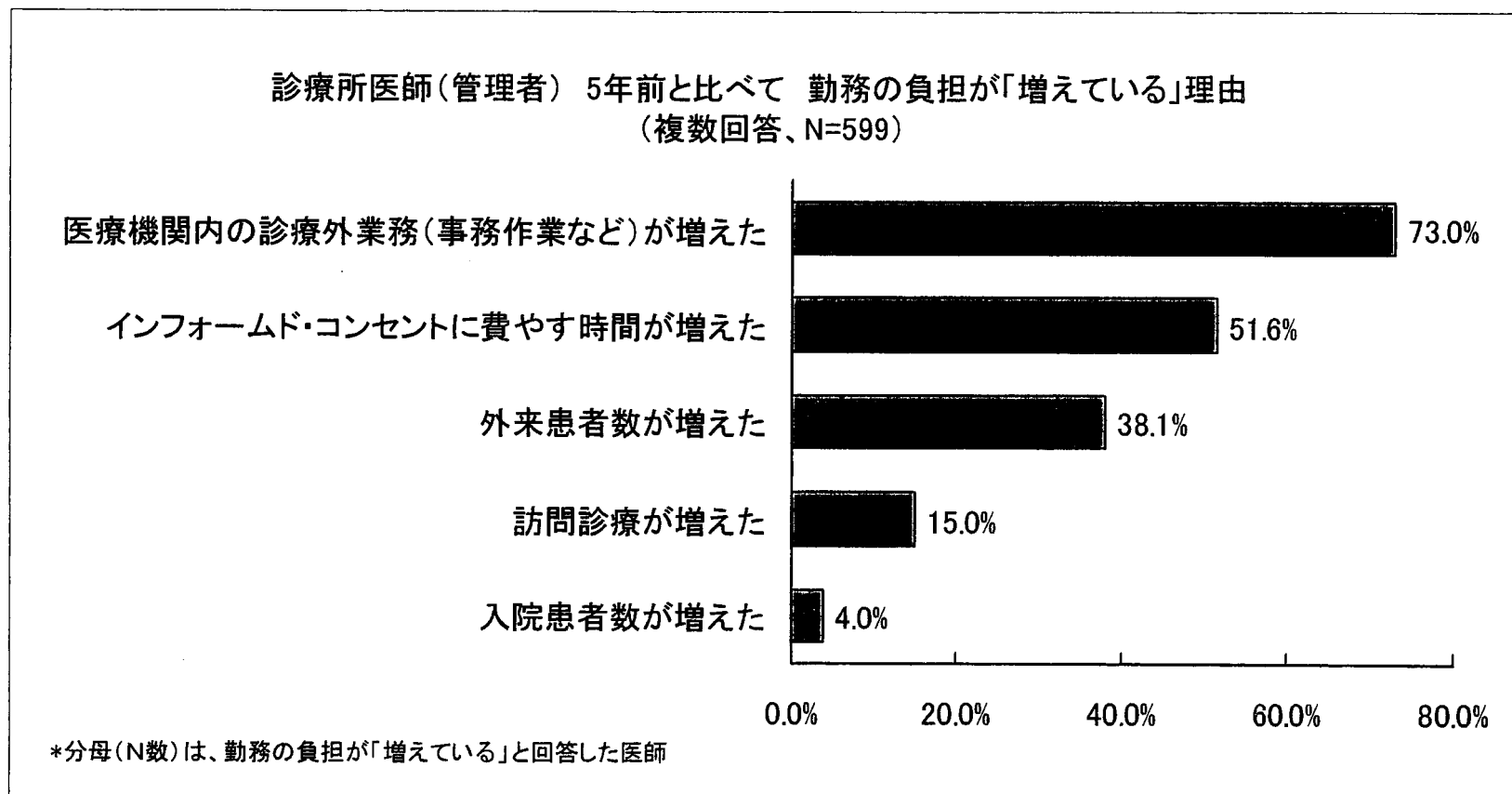
診療所医師(管理者)の48.1%が、5年前に比べて業務の負担が「増えている」と感じていた。また「増えている」と感じる医師の比率は年代が若いほど高く、50歳代以下では半数を超えていた。



勤務医師時代を「凌駕する業務」、勤務医師時代に比べて「拘束時間が増えています」、「勤務医のほうが楽だった」という声もあった。

業務の負担増の背景

業務の負担が増えている理由として、「診療外業務(事務作業など)が増えた」ことを挙げる診療所医師(管理者)が73.0%と最も多かった。
「インフォームド・コンセントに費やす時間が増えた」も半数以上であった。



まとめ

診療所医師(管理者)の1週間の就業時間は、全体で平均51.2時間であったほか、30歳代、50歳代でも週50時間を超えていた。

地域医療活動(学校医・産業医等、救急対応、介護保険、行政・医師会等、地域行事の合計)は、40歳代では平均週3.9時間、50歳代では4.3時間行っていた。またこのうち、特に30歳代から50歳代では救急対応が週2時間以上であった。救急に関しては、40歳代、50歳代の3割以上が調査期間内の1週間において一度以上、診療時間外に救急対応業務に従事していたほか、60歳代でも2割以上が従事していた。

業務の負担が増加したと考える診療所医師(管理者)が、40歳代、50歳代に多く、その理由は、主として「診療外業務(事務作業など)」「インフォームド・コンセント」であった。

⇒ 病院勤務医師の過重労働が指摘されている。

診療所医師(管理者)も、全体で平均週50時間以上就業している。

また、診療所医師(管理者)は、診療時間外にもさまざまな地域医療活動に取り組んでいる。

一方で、書類作成等の事務作業やインフォームド・コンセントのように、近年比重が高まってきた業務(調査では質問していないが、安全対策、環境対策も同様と推察される)への評価も必要である。